

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会権利行使株主確定日 3月31日 利益配当金支払株主確定日 3月31日 中間配当金支払株主確定日 9月30日
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (其他のご照会) ☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
1単元の株式の数	1,000株
公告掲載新聞	日本経済新聞、北海道新聞 ただし、商法特例法第16条第3項に定める貸借対照表および損益計算書に係る情報は、 http://www.awi.co.jp/index5.html において提供しています。
上場証券取引所	札幌、東京、大阪
名義書換手数料	無料

単元未満株式の買増請求お取扱いのご案内

平成15年6月開催の第3期定時株主総会においてご承認いただきました定款の変更により、1単元(1,000株)未満の株式をご所有の株主様は、1単元に不足する数の株式を買い増すことができるようになりました。

お手続きの詳細は、住友信託銀行株式会社(☎0120-176-417)にてご案内いたします。なお、証券保管振替制度をご利用の場合は、お取引の証券会社へお問い合わせください。

AIR WATER INC.

<http://www.awi.co.jp/>

第4期 事業報告書

平成15年4月1日から
平成16年3月31日まで



エアウォーター株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第4期営業年度（平成15年4月1日から平成16年3月31日まで）が平成16年3月31日をもちまして終了いたしましたので、ここに営業の概況についてご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、景気回復の動きが各種経済指標の上で明確に現れてまいりました。高成長を続ける中国をはじめアジア地域への活発な輸出に牽引され、生産や設備投資は堅調であり、企業収益も向上してまいりました。個人消費の面でもわずかながら明るい兆しが見えてまいりましたが、雇用環境は依然厳しいものがあり、景気全体としては緩やかな回復に留まることとなりました。

このような環境の下、当社はソリューション・サービスへの転換と企業価値の向上を2大指針とする3か年中期経営計画を進めてまいりました。最終年度にあたる当期は、成長分野の強化・拡大に一層重点を置きM&Aを積極的に推進するとともに、各事業分野での構造改革を図ってまいりました。

産業ガスは年間を通して前年同月を上回り堅調に推移し、特に鉄鋼ならびに半導体向けのオンサイト供給が順調に推移いたしました。また、新潟・山形・福島地区の産業用および医療用ガスの安定供給の確保を狙

いとして、液化酸素・液化窒素製造装置「VSU」を導入した新潟工場を新設いたしました。これにより、同地区における物流の効率化と販売力の強化を行いました。

医療分野では、高度医療の進展や病院経営の効率化などの市場変化に柔軟に対応できる体質作りを目指して、医療用ガスから医療機器・医療サービス事業に重点をシフトした事業展開を推進いたしました。

一方、グループ連合経営体制の強化を目指した分社化政策の一環として、エネルギー部門の事業移管と食品部門の完全分社化を実施いたしました。これに伴い、当期の業績は前期を下回ることとなりましたが、経営の効率化により連結業績の向上に寄与することとなりました。

以上の結果、当期の売上高は1,260億8千1百万円（前期比92.3%）、経常利益は102億5千7百万円（前期比98.0%）、当期純利益は40億5千8百万円（前期比90.6%）となりました。

なお、当期の連結業績といたしましては、売上高は2,652億7百万円（前期比112.0%）、経常利益は148億5千9百万円（前期比116.7%）、当期純利益は56億6百万円（前期比123.1%）となりましたのでご報告申し上げます。

今後のわが国経済は、米国や欧州など世界経済の順調な回復を受けて、輸出と設備投資の好調が続き、緩やかな景気回復が持続するものと思われれます。

こうした中、当社は平成16年度を

初年度とする新中期経営計画「ターゲット3600」を策定し、本年3月17日に公表開示いたしました。業容の拡大による成長を基本戦略として、3年後のエア・ウォーターグループの連結業績といたしましては、売上高3,600億円、経常利益230億円、当期純利益100億円の達成を目指し、営業利益率を7%、株主資本利益率（ROE）を12%とする目標を掲げております。

平成12年4月1日のエア・ウォーター誕生以来、当社は一貫して成長分野への取り組みを強化・推進してまいりました。この結果、国内経済が長期に停滞する中であっても、M&A、分社化政策、調達コストの削減などにより着実に業績を拡大し、持続的な成長を達成してまいりました。

新中期経営計画では、この間に培った成長力をより一層高め、産業ガス業界において圧倒的な存在感のある企業へと進化していくことを目指しております。そのために、新中期経営計画の基本戦略である業容の拡大に向け、「M&Aの積極的展開」、「ソリューション・サービスの深耕」、「技術による新分野の開拓と需要の創出」を推進してまいります。

平成16年度における各事業の重点施策として、産業関連事業においては、最新鋭の酸素・窒素ガス発生装置「V3」を活用して、特殊ガラス製造プラントやシュレッターダストリサイクルをはじめとする廃棄物処理プラントでの新規オンサイト需要を開拓してまいります。また、環境事

業への取り組みとして、静電脱イオンプロセス等の独創的な水処理技術と廃サイロを利用した酪農バイオガス分野を強化してまいります。医療関連事業においては、SPDや受託滅菌サービスをはじめとする病院業務のアウトソーシングを積極的に受注することにより医療サービス分野を拡大し、総合医療サービス事業を目指してまいります。エネルギー関連事業においては、家庭用小規模タイプのコージェネレーションシステムの開発を進め、新しいエネルギー事業を展開してまいります。

以上のとおり、平成16年度におきましては、新中期経営計画の初年度として、その目標達成に全力を挙げて取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年6月



代表取締役会長（CEO）

青木 弘

各部門の概況

産業関連部門

産業用ガス関連では、酸素が鉄鋼・ガラス向けを中心に好調に推移いたしました。また、窒素は液晶向けが引き続き順調であるとともに、半導体生産の回復を受け、総じて堅調に推移いたしました。水素は非鉄・ガラス・シリコンウェハー向けに好調に推移いたしました。

溶接関連では、主力商品である溶接用ガス「エルナックス」が自動車向けを中心に順調に推移するとともに、産業機材・溶接棒も堅調に推移いたしました。

エアゾール関連は、夏場の天候不順による影響を受け塗料向けが上半期には低調でありましたものの、家庭用消火スプレーが好調に推移するなど、総じて堅調に推移いたしました。

以上の結果、当部門の売上高は872億7千万円（前期比102.3%）となりました。

医療関連部門

医療サービス事業を核として医療用ガス・機器などの取引拡大を目指した総合医療サービスの展開に注力し、医療事業の強化・拡充を推進いたしました。

医療サービス事業の中心であるSPD（院内物品物流管理）は、受託滅菌サービスとの複合提案などの強みを生かして受注病院数を着実に拡大し堅調に推移いたしました。医療用ガスについては、病院経営の効率化による影響を受け、医療用酸素ならびに亜酸化窒素がやや低調に推移いたしました。

在宅酸素療法は、患者数の伸びの鈍化や競争の激化により厳しい状況にありましたが、新規在宅医療事業として、SAS（睡眠時無呼吸症候群）治療における持続陽圧呼吸療法装置の拡販に注力いたしました。

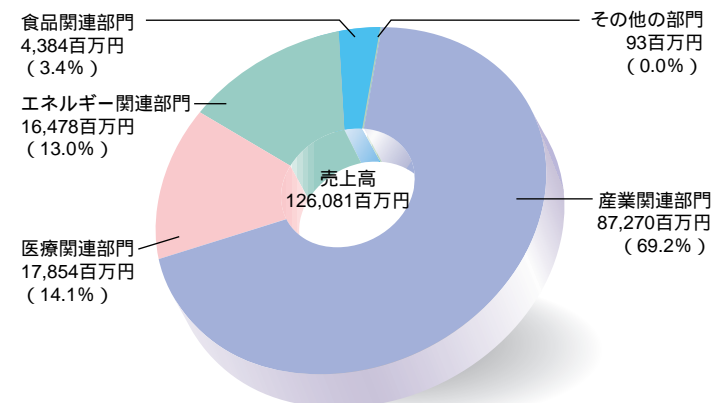
以上の結果、当部門の売上高は178億5千4百万円（前期比101.9%）となりました。

エネルギー関連部門

主力のLPガスを取り巻く環境は、電力や都市ガスとの各種エネルギー間競争が激しさを増すとともに、単位消費量の落ち込みや暖冬による需要低下など厳しい状況が続いております。

こうした中、LPガス・灯油事業につきましては、事業の構造改革を目的として、前期にエネルギー専門会社「エア・ウォーター・エネルギー株式会社」をスタートさせました。その結果、新会社への事業移管により当部門の売上高は縮減いたしました。この施策により販売拠点や充填工場の統廃合によるコスト削減と生産性の向上を実現し、事業連結での収益力を強化いたしました。

部門別売上高構成比



一方、新エネルギー事業は、コージェネレーションシステム「ETシリーズ」の拡販強化ならびに天然ガスのパイピング供給とLNGの独自輸送システムの開発に注力するなど、事業領域拡大への積極的な取り組みにより堅調に推移いたしました。

以上の結果、当部門の売上高は164億7千8百万円（前期比63.2%）となりました。

食品関連部門

冷凍食品事業は、主要販売先である外食チェーンをはじめとする外食産業の低迷や消費者の食生活の変化など厳しい状況の中、市場が拡大傾向にある弁当・惣菜・宅配分野などに注力いたしました。

ハム・デリカ事業は、北海道産豚肉を原料とした贈答用商品が好調に推移するとともに、本州地区では業務用冷凍食品の販売ルートを活用して主力商品である生ハム製品の販売に注力した結果、順調に拡大いたしました。

当部門におきましては、食品事業分野における競争力強化を狙いとして、平成15年7月に子会社「春雪さぶー株式会社」へ全面的に事業移管を行いました。これに伴い、当部門の売上高は上半期のみでの計上となりました。この施策により、製販一体化による独立事業会社として経営の効率化と顧客指向の向上を実現し、連結業績に貢献することとなりました。

以上の結果、当部門の売上高は43億8千4百万円（前期比56.8%）となりました。

㈱神戸製鋼所と共同事業会社を設立

当社と㈱神戸製鋼所殿とは、両社の深冷空気分離装置のエンジニアリング事業に関する経営資源を統合し、その技術力ならびにコスト競争力の強化を目的として、本年4月1日に共同事業会社「神鋼エア・ウォーター・クライオプラント㈱」(本社:神戸市、資本金:90百万円)を設立いたしました。

新会社は、当社の得意とする中・小型の深冷空気分離技術と㈱神戸製鋼所殿が有する大型の深冷空気分離技術を統合することにより、世界有数の空気分離プラントメーカーを目指します。

また、㈱神戸製鋼所殿の加古川製鉄所における産業用ガスの外販事業についても、共同事業会社「神鋼エア・ウォーター・ガス㈱」(本社:大阪市、資本金:50百万円)を設立いたしました。これにより、当社は西日本地域における新たなガス供給拠点を確保するとともに、両社のガス外販事業の拡大と㈱神戸製鋼所殿との一層の関係強化を図りました。

新型空気分離装置「VSU」が稼働

新潟県内で建設を進めておりました液化酸素・液化窒素製造装置「VSU」の第1号機が稼働いたしました。この新型プラントは、これまで輸送距離が長かった地域でのガス供給について、地域毎の需要に適した供給体制を整備することにより、産業・医療用ガスの安定供給と大幅な物流の効率化を可能といたします。

当社の独自技術により開発したこのプラントは、フロン冷凍機を使わない環境負荷低減型であるとともに、2タービン方式による冷却方法と最新の特殊真空断熱技術を採用したことから、高効率・低コスト・省スペースを特長としています。また、設備ユニットのパッケージ化による工期の大幅な短縮や運転制御システムの全自動化による人的コストの省力化を実現しています。

液化酸素・液化窒素製造装置「VSU」



エア・ウォーター・エモト㈱誕生

当社は、平成15年8月に北海道・東北地区を地盤とするシステムバス専門メーカーの江本工業㈱に資本参加し、経営権を取得いたしました。本年4月には、経営統合による効率化を目的として、同社と当社の住設関連子会社である㈱エア・ウォーター・リビングとの合併を行いました。新会社「エア・ウォーター・エモト㈱」(本社:札幌市、資本金:1,010百万円)は、従来の全国営業展開に加えて、寒冷地仕様の浴室製品に圧倒的な強みを持つ会社となりました。さらに、ヤマハリビングテック㈱殿との包括的業務提携により、従来のシステムバス専門メーカーから、浴室・キッチンなど水まわりの専門メーカーとしての地位を確立しました。



川重防災工業㈱へ資本参加

当社は、平成15年10月に川崎重工業㈱殿から川重防災工業㈱(本社:神戸市、資本金:1,078百万円)の株式33%を譲り受けるとともに、川重防災工業㈱との間で、医療関連事業を中心とする包括的業務提携を行いました。これにより、医療関連分野において技術力の強化による新製品の開発、拡販ならびにメンテナンス事業の拡大を図るとともに、産業関連分野においても、同社の行う防災関連事業との相乗効果を追求してまいります。

エアゾール事業を統合・拡大

当社のエアゾール事業は、平成元年に近畿エアゾール工業㈱、平成13年に柏化学㈱ならびに東京エアゾール化学㈱の経営権を取得し、グループ全体で業界シェア3位を確保しました。平成15年10月には、これら3社を合併し、「エア・ウォーター・ゾル㈱」(本社:東京都、資本金:400百万円)をスタートさせるとともに、茨城、岐阜、兵庫の全国3工場体制を構築しました。また、本年3月には商品開発力に定評のある業界4位のキョーワ工業㈱に出資し、さらなる事業の拡大を図りました。



エアゾール商品群

事業紹介

産業関連部門

当社は、大規模なオンサイトプラントから窒素ガス発生装置（V1シリーズ）などの小型オンサイトプラントまで、ユーザーの多様なニーズに対応したプラントを設置し、パイプラインやローリーなどあらゆる供給形態に対応しております。

また、エンジニアリング関連では、超高純度、超低温、高圧、真空などのガスコントロール技術を活かし、厳しい品質管理のもと、各種ガス関連機器設備の設計・製造から、超高純度配管工事さらにはメンテナンスまで一貫して取り組んでいます。

さらに、当社は、トータルガスサプライヤーとしてのノウハウを活かし、生活に身近な各種エアゾール商品を製造しています。とくに近年は環境配慮型商品の開発を中心に、産業用・一般家庭用のOEM供給を含め、多様な商品群を販売しています。また、溶接・切断機器等の産業機材の販売事業を行うとともに、排ガスの無害化処理や酸素・オゾンを利用した排水処理技術など、環境事業にも積極的に取り組んでいます。

また、当社が独自に開発した金属表面処理技術であるNV超窒化は、自動車部品や電子部品への採用が進み、海外においてもタイ、フィリピン、香港で現地法人を設立しております。

医療関連部門

当社は、医療用ガスの安定供給とともに、高気圧酸素治療装置や成人用人工呼吸器など高度医療を支える最新医療機器の販売のほか、人工空気製造システムなどの病院設備を設計・施工・メンテナンスまでの一貫体制によりサポートしています。また、在宅酸素療法・受託滅菌・SPD（院内物品物流管理）などの医療関連サービスに積極的に取り組むとともに、福祉介護関連サー

宇都宮工場



酸素・窒素ガス併産装置「V3」



NV超窒化製品



半導体製造用ガス供給装置



受託滅菌センター

ビスにおいても介護ショップや在宅支援センターの設置などの新たな展開を行っております。

エネルギー関連部門

当社は、LPガスを家庭用・工業用・簡易ガス事業など様々な領域で供給し、「ハローガス」の名で親しまれています。家庭向けには、LPガス・灯油と生活関連機器の最適な組み合わせを推奨して、より快適な生活サービスを提案しています。また、多様化するニーズを先取りし、省エネルギー・省コストに着目したコージェネレーションシステム「ETシリーズ」や空調設備ガスヒートポンプの販売など、ユーザーの使用環境に合わせた各種エネルギーのベストミックスを提案してまいります。さらに、当社独自の真空断熱技術を用いて開発したLNGタンクコンテナなど様々なエネルギー関連機器を販売しています。

食品関連部門

当社は、新鮮な農産物、海産物を産地で急速凍結し、高品質な冷凍食品を製造・販売しています。液体窒素凍結など各素材にあった凍結システムを採用した「さぶーる」ブランドの冷凍食品は、素材の美味しさをそのまま封じ込めた食材として高く評価され、全国のホテルや高級レストランなどで使用されています。また、旧雪印食品より継承したハム・デリカ事業は、北海道が生んだ伝統あるブランドのもとで育まれた技術と品質を受け継ぐとともに、高品質で独創的な商品を豊富にラインアップしており、一般消費者の皆様からご好評を頂いております。



酸素濃縮器「OXY」

人工空気製造システム

LNGタンクコンテナ



ハローガス球形タンク



早来工場



「はやきたクラシック」

貸借対照表の要旨

(平成16年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	
流動資産	57,126	流動負債	45,716
現金及び預金	3,351	支払手形	4,125
受取手形	3,297	買掛金	18,099
売掛金	35,280	短期借入金	14,545
たな卸資産	3,642	未払金	786
短期貸付金	8,952	未払法人税等	2,355
未収入金	1,805	未払費用	2,137
その他	812	預り金	3,225
貸倒引当金	16	その他	440
固定資産	93,456	固定負債	31,024
有形固定資産	40,390	長期借入金	26,383
建物及び構築物	11,441	繰延税金負債	2,428
機械及び装置	10,747	退職給付引当金	935
土地	15,813	役員退職慰労引当金	1,244
建設仮勘定	1,710	その他	33
その他	678	負債合計	76,740
無形固定資産	752	資本の部	
投資その他の資産	52,312	資本金	15,513
投資有価証券	21,478	資本剰余金	12,022
子会社株式	18,891	利益剰余金	50,579
長期貸付金	5,675	土地再評価差額金	△ 5,282
再評価に係る繰延税金資産	3,605	株式等評価差額金	1,133
前払年金費用	1,127	自己株式	△ 125
敷金・差入保証金	1,063	資本合計	73,842
その他	2,428	負債及び資本合計	150,582
貸倒引当金	1,959		
資産合計	150,582		

損益計算書の要旨

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	126,081
売上原価	96,099
販売費及び一般管理費	20,569
営業利益	9,412
営業外収益	2,168
営業外費用	1,324
経常利益	10,257
特別利益	104
特別損失	3,243
税引前当期純利益	7,117
法人税、住民税及び事業税	4,115
法人税等調整額	△ 1,055
当期純利益	4,058
前期繰越利益	23,937
土地再評価差額金取崩額	△ 29
中間配当額	757
当期未処分利益	27,208

利益処分

(単位：円)

摘 要	金 額
当期未処分利益	27,208,457,003
固定資産圧縮積立金取崩額	68,350,518
特別償却準備金取崩額	4,423,936
計	27,281,231,457
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金(1株につき5円)	757,265,575
役員賞与金	65,450,000
(うち監査役賞与金)	(5,550,000)
計	822,715,575
次期繰越利益	26,458,515,882

連結貸借対照表

(平成16年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
流動資産	101,522	流動負債	103,151
現金及び預金	10,392	支払手形及び買掛金	43,287
受取手形及び売掛金	58,676	短期借入金	38,621
有価証券	202	社債(1年以内償還)	280
たな卸資産	19,072	未払費用	8,323
短期貸付金	6,019	未払法人税等	4,055
繰延税金資産	2,456	その他	8,583
その他	5,491	固定負債	62,943
貸倒引当金	789	社債	1,540
固定資産	138,350	長期借入金	50,833
有形固定資産	98,251	繰延税金負債	3,452
建物及び構築物	24,121	再評価に係る繰延税金負債	153
機械装置及び運搬具	29,279	退職給付引当金	4,482
土地	33,572	役員退職慰労引当金	1,440
建設仮勘定	3,526	その他	1,041
その他	7,750	負債合計	166,095
無形固定資産	5,490	少数株主持分	
連結調整勘定	3,425	少数株主持分	4,057
その他	2,064	資本の部	
投資その他の資産	34,609	資本金	15,513
投資有価証券	21,559	資本剰余金	12,022
長期貸付金	1,716	利益剰余金	46,458
繰延税金資産	1,654	土地再評価差額金	△ 5,180
再評価に係る繰延税金資産	3,605	その他有価証券評価差額金	1,255
その他	7,216	為替換算調整勘定	△ 224
貸倒引当金	1,142	自己株式	△ 125
資産合計	239,873	資本合計	69,720
		負債、少数株主持分及び資本合計	239,873

連結損益計算書の要旨

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	金額
売上高	265,207
売上原価	187,593
販売費及び一般管理費	61,602
営業利益	16,011
営業外収益	1,710
営業外費用	2,862
経常利益	14,859
特別利益	761
特別損失	3,499
税金等調整前当期純利益	12,121
法人税、住民税及び事業税	6,850
法人税等調整額	1,052
少数株主利益	717
当期純利益	5,606

連結剰余金計算書の要旨

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	金額
利益剰余金期首残高	43,361
利益剰余金増加高	5,652
利益剰余金減少高	2,555
利益剰余金期末残高	46,458

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,330
投資活動によるキャッシュ・フロー	18,104
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,012

会社の概要

商号 エア・ウォーター株式会社
 設立 昭和4年9月24日
 資本金 15,513百万円
 発行済株式総数 151,700,942株
 株主数 11,615名
 従業員数 908名

本店 札幌市中央区北3条西1丁目2番地
 本社事務所 大阪市中央区東心斎橋1丁目20番16号
 主要な営業所

北海道支社	北海道札幌市	中部支社	愛知県名古屋
東北支社	宮城県仙台市	近畿支社	大阪府大阪市
関東支社	東京都港区	中・四国支社	岡山県岡山市
甲信越支社	新潟県阿賀野市	九州支社	福岡県福岡市

主要な工場

千歳工場	北海道千歳市	山口工場	山口県下松市
輪西工場	北海道室蘭市	小倉工場	福岡県北九州市
鹿島工場	茨城県鹿嶋市		
宇都宮工場	栃木県宇都宮市	稚内LPG基地	北海道稚内市
新潟工場	新潟県阿賀野市	釧路LPG基地	北海道釧路市
和歌山工場	和歌山県和歌山市	函館LPG基地	北海道上磯郡

大株主

株主名	持株数 千株	議決権比率 %
住友金属工業株式会社	7,585	5.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,454	4.98
住友信託銀行株式会社	7,277	4.86
エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズ・インコーポレーテッド	5,911	3.95
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,309	3.55
株式会社三井住友銀行	5,095	3.40
株式会社新生銀行	4,852	3.24
エア・ウォーター取引先持株会	4,691	3.13
株式会社みずほコーポレート銀行	4,428	2.96
株式会社リキッドガス	3,786	2.53

役員

会社における地位	氏名
代表取締役会長 最高経営責任者(CEO)	青木 弘
代表取締役副会長 最高業務執行責任者(COO)	豊田 昌洋
代表取締役社長 最高業務執行責任者(COO)	美坂 佳助
取締役副社長	吉野 明治
取締役副社長	吉南 勝治
取締役副社長	見野 忠嗣
常務取締役	赤津 敏彦
常務取締役	笹山 隆男
常務取締役	平松 博久
取締役	藤原 慶夫
取締役	豊田 喜久夫
取締役	金澤 正博
取締役	藤田 昭
取締役	半田 勇
取締役	泉田 孝
取締役	和場 弘
取締役	角谷 登
取締役	小島 又雄
取締役	ジョセフ・ジョン・カミンスキー
常勤監査役	片野 俱宏
常勤監査役	伊藤 安生
常勤監査役	半田 忠彦
監査役	石橋 太郎

(注)1. 取締役小島又雄、ジョセフ・ジョン・カミンスキーの両氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

2. 常勤監査役伊藤安生氏および監査役石橋太郎氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。